発行日：H２３．２．２８

和歌山県立向陽高等学校

第１７号

向陽 SSH NEWS

編集：向陽高校SSH事務局

SSH先端科学講座

「ＥＳ細胞やｉＰＳ細胞など多能性幹細胞が万能細胞と呼ばれる理由 ～広範な研究や医学への大きな貢献の可能性～」

２月１５日（火）、京都大学再生医科学研究所発生分化研究分野教授　中辻憲夫先生をお招きし、先端科学講座を開催しました。中学3年生、高校1･2年環境科学科、高校2年普通科（理系）の計316名が参加しました。今回の講座では、再生医療や遺伝子治療などバイオサイエンスについての理解を深めるとともに、その研究がどのように医療や創薬に貢献できうるのかを中心に学習することを目的としています。講演では、ES細胞とiPS細胞について説明していただき、ES細胞を使った細胞治療を目指す研究の現状や安全性の確保などの先端医療の難しさについて教えていただきました。万能細胞から多種細胞を誘導すれば疾患のある部位に新しい細胞を足すことができます。万能細胞には安全性などの問題がいくつか残されていますが、パーキンソン病や脊髄損傷、肝硬変などの治療に向けた再生医療の研究が進められているそうです。質疑応答では、参加生徒から「ES細胞はどうやって特定の部位に変化させるのか」などの積極的な質問が出され、分かりやすく説明していただきました。また、自分がおもしろいと思ったことが自分の進む道であることや、研究には頑張る努力が一番必要であることなどについてお話いただき、学問に対する姿勢や倫理観についても学ぶことができました。

参加生徒の感想より

「再生医療は、今の医療にとても大切だと分かり、身近に感じることができました。」「“英語が使われるから英語の勉強をしておく方がいい”と言われたのが印象に残った。どんな道に進むのにも、英語は必要なんだなと思った。」「内容的にはとても難しかったけれど、研究内容（好きなこと）を話している先生の楽しそうな顔が印象に残った。」「今まで、科学技術は日々変わっていて昔はできなかったことができると言われてもピンとこなかったが、こういう機会に具体的な話が聞けてよく分かった。」「少し難しかったけれど、面白くていい勉強になりました。機会があれば、また参加したいです。」「研究が進んで、よりよい医療等が世界中でできるようになってほしいと思いました。」

京都大学学術情報リポジトリ
マンガプロジェクトより

第１９回 わかやまソフトウエア・ＣＧコンテスト

和歌山大学システム工学部賞を受賞

作品「地学部クイズ」

第１９回わかやまソフトウエア・ＣＧコンテストの表彰式が２月１１日（土）、和歌山ビッグ愛で行われました。このコンテストで、文化祭に地学部が催し物として製作した「地学部クイズ」が、ソフトウエア部門の審査員特別賞（和歌山大学システム工学部賞）を受賞しました。

十進ＢＡＳＩＣでの制作のため、他言語に比べ、外部データを用いることが難しく、画像や問題データの扱いに苦労したそうです。

第５４回 全国学芸科学コンクール 入賞者発表

応募していた作品のうち、下記の生徒が入賞しました。

ポスター（環境をテーマ）部門

旺文社赤尾好夫記念賞（入選）

１年　新谷　依美　さん

入賞、おめでとう！！